
パパの短冊

えんぴつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パパの短冊

【Nコード】

N2370C

【作者名】

えんぴつ

【あらすじ】

七夕飾りの飾り付けの最中に、子供がふと口にした言葉が、ママとの出会いを甦らせてくれた。ぼく、ママ、まみ。このかけがえのない家族は、1枚の短冊からはじまったんだ……。

「ねえねえ、パパは何をお願いするの？」

家の玄関を開けると、待ってましたとばかりに幼稚園に通う娘のまみが七夕の笹飾りを手に持って、ぼくに走り寄ってきた。

「お、なんだ、これ。幼稚園で作ったのか？」

「うん。まみは『おいしいケーキをたくさん食べたい』ってお願いしたの。ママはね、え〜と、『かぞくみんながけんこうでありますように』だって」

まみが、短冊を読みながら言った。

「そうかそうか、パパお風呂に入っちゃうから、そしたら書くからな」

「早く入ってください」

時折、敬語が混じるその話し方が、たまらなくかわいい。

お風呂から出ると、ゆっくりする間もなく、またまた娘の短冊攻撃がはじまった。

「ねえねえパパ、早く書いてよ。そしたらベランダに飾るんですから」

「ん〜、なんて書くのかな。願いごとかあ」

正直なところ真つ先に浮かんだのは、「最新型のマッサージエ
アが欲しい」だったが、そんな夢のないことを書いたらママに怒ら
れそうだし、家族の健康はママに取られちゃったし。ぼくはほかに
何かないか考えた。

ま、なんだっていいんだ。娘が喜ぶようなことを書けば。娘はい
ま英語教室に通っているから「まみの英語が上達しますように」で
いいか。いや、それなんか教育熱心みたいでイヤだな。お、そうだ、
そうだ。

ぼくは折り紙を半分に切った短冊に、ひらがなで「まみがうんど
うかいのかけっこで1とうしょうになりますように」と書いた。

まみはぼくが書いた短冊を読み、「速いお友達がいたら無理です
よ。遅いお友達と一緒になら大丈夫かもね」などとブツブツ言いなが
ら、ママと2人でベランダに出て、七夕飾りを飾り付け、「お願い
事、かなうといいね」なんてかわいらしいことを言っている。

お願い事、かなうといいね、か。

ぼくはビールをグラスに注ぎながら、あれ、どこかで聞いたこと
のあるセリフだなあと、ちよつと気になった。が、すぐに娘のクイ
ズ攻撃にあつてそのことは頭の中を通り過ぎていった。

とにかく娘はいまクイズ魔だ。

ちよつと前までは「なんで？　なんで？」と質問魔だったのが一
歩成長したのか、最近幼稚園の先生に教わったことやテレビや本
で知ったことを得意気にぼくに言いたいらしく、なんでも問題形式

で攻めてくる。

たいていはたわいもない問題だけど、たまに「どうして雨が降るのか、パパ知ってる？ まみは知ってるよ」なんて言われると焦るんだ、これが。

今晚の娘の問題は、七夕についてだった。

「パパ、七夕ってなんの日か知ってる？」

「それは織姫と彦星が1年に1回、お空で会える日だよ」

「ピンポーン。でも会うだけじゃないですよ。デートするんだからね」

「へへ、デートするんだあ。デートってなにをするの？」

娘の口からデートなんて言葉が出てくると父親というのはかなりドキツとする。

「それは、男の人と女の人と一緒にお話をしたり遊んだりするんだよ」

そして、こんな答えにホツとする。

「まみはデートしたことあるの？」

「えへ、まだ子供だからないに決まってるでしょ。パパはあるの？」

「あるわ。ママといっばいデートしたよ」

「いいな。まみもパパとデートしたい！」

まあ、なんてかわいいことを言ってくれる娘なんだろう。

なんかこう、両手で顔といい頭といいメチャクチャに撫でまわしたい感じた。

こうしてビール飲みながらまみの相手をしているのが、いまのぼくの至福の時間になっている。

「はいはい、もう遅いからまみは寝なさい」

ママの言葉にまみはぼくの手を引く張って、「ねえねえ、もっとお話しよ。お布団の中で」とぼくに添い寝をねだった。

もちろん娘にメロメロのぼくは、ビールを飲み干すとまみの布団に入り、話の続きをはじめた。

「ねえパパ、ママとどんなところへデートに行ったの？」

「そうだなあ、映画を観たり、レストランで食事をしたり、最初のデートは、あれ？ 最初のデートは……」

そうだっ、さっきまみが言った「お願い事、かなうといいね」っという言葉、ママが言ったんだ！

同じ言葉を10年後に娘から聞くとは……。

あれはパパが大学3年でママが1年の時だった。

その頃のパパはとにかく旅行が好きで、バイトでお金を貯めては自転車で全国をまわっていた。

あの時は北海道1周旅行の最中だった。

何日間か寝袋生活が続いて、そろそろお風呂にも入りたかったからサロマ湖のユースホステルに泊まった夜のことだ。

パパはユースホステル特有のあの“みんな仲間だ”みたいな雰囲気^①が苦手^②で、食事を済ますとすぐに寝てしまうつもりだった。

でも、食堂でひとりの女のコが「自転車でひとりでまわっているんですかあ。すごいですねえ。夜とか怖くないですかあ？」なんて話しかけてきて、そのうちに外でキャンプファイヤーやフォークダンスがはじまっちゃったもんだから、そのコに誘われてパパも柄にもなくフォークダンスまで踊ってしまったんだ。

そのコの手、すべすべで、柔らかくて、小さくて、かわいかった。

その後は、結局みんな遅くまでワイワイ飲んでしゃべって盛り上がった。

朝起きると、ユースホステルの玄関に大きく太い竹の七夕飾りが用意されていたんだ。昨日はなかったから、その日からはじまった七夕企画だったみたいで、宿泊客が思い思いの願い事を短冊に書き、チェックアウトしていた。

パパはまだお酒が残っていたのか、それとも旅先で大胆になっていたのか、普段なら絶対にそんな勇氣なんかないのに短冊に『優ちやんに会わせてください』って書いたんだ。

そう、ママにまた会いたいって。

ママとママのお友達には朝食の時に別れを告げていた。

だから、パパがこのまま自転車に乗って次の目的地に向かえば、それでもうママとは2度と会うこともない。

お互い連絡先もなにも交換していなかったから。

後ろ髪を引かれる思いで、パパは自転車に荷物をくくりつけ、さあ出発という時に、意外なことが起こった。

ママがぼくの前に現れたんだ。恥ずかしそうにはにかんで。

そしてメモをパパに手渡すと、「お願い事、かなうといいね」と小さな声で言った。

舞い上がっているパパはなんのことかすぐには分からなかったけど、その意味が分かれると顔から火が出るくらい恥ずかしくなって、パパはロクな言葉もかけずにペダルを踏んでママの前から走り去ってしまった。

メモにはママの住所と電話番号が書いてあった。

それから東京のパパと福岡のママとの文通がはじまったんだ。

まだお互いパソコンも携帯も持っていなかったからね。

パパはママが好きになり、すぐにでも福岡まで会いに行きたかったんだけど、パパのパパ、つまりまみのおじいちゃん倒れて、パパのお家はお金に困っちゃって、とてもそんな余裕はなかったんだ。

そして文通だけの交際が1年近く続いたある日。

パパ彦星はどうしても、ママ織姫に会いたくて会いたくて、とうとう自転車で天の川を渡る決心をしたんだ。

東京と福岡まで距離にして1300キロメートル。当時のパパにとっては、そんなに驚く距離ではなかった。でも、時間がなかったんだ。7月7日に福岡に着くためには10日しかなかった。1日130キロメートルの強行軍は、パパでも無謀なスケジュールだったんだ。でも、行くしかないと思った。

パパはペダルを漕いで漕いで漕ぎまくった。筋肉痛で太腿が痙攣しても、歯を食いしばって漕いだんだ。

そして、7月7日、七夕の夜に博多の駅前ママと再会したんだ。

ママは、いまにもベソをかきそうな顔で「去年の七夕のお願い事、かなったね」って言うてくれた。

あの時のママの顔、かわいかったなあ……。

「だからね、七夕さまがお願い事をかなえてくれたからパパとママは結婚できて、まみが生まれたんだよ、まみ。まみ？」

娘はとっくに寝息をたてていた。

ぼくは静かにまみの布団から抜け出すと、新しい短冊に「優ちやんとずっと一緒に仲良く暮らせますように」と書いた。恥かしいのでまみが読めないように漢字で。

さて、ママがこの短冊に気付いたら、ぼくになんて言葉をくれるのだろう。

10年前と同じように「お願い事、かなうといいね」って、はにかんで言ってくれるかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2370c/>

パパの短冊

2010年10月10日19時18分発行